

たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校 横山文朗

振り返り

文部省の元教科調査官に宮川八岐という人がいる。北海道の雪深い小さな町の出身で、東京都の公立小学校に勤務し、校長を経験した後に文部省の教科調査官になったという異色の経歴の人だ。この人が島根県木次町の小学校で講演をした。「わたしの家は山の上であり、5～6 km の道を下って学校に通った。帰りは、上り坂をゆるゆると歩いた。この小学校にも遠距離を通学している子どもがいると聞いた。遠距離を通うというのは大変そうに思うが、悪いことばかりではない。朝、家を出た子どもは、昨晚のことを、朝食の時のことを振り返りながら学校に行く。家でのことを振り返りながら学校でがんばろうという気持ちを固める。帰りは、大好きなミヨちゃんのことを考えながら、けんかをしたトモくんのことを考えながら家へと歩を進める。家でのことを学校でのことを振り返りながら、自分を見つめながら歩く。この時間が子どもを育てるんだ。」

振り返りという言葉は、岡山型学習指導のスタンダードの中に出てくるが、振り返りという活動はずっと前からある。道徳では、本時の価値に照らして、自分を振り返り自己を見つめることが、授業の中で最も重要な場面だと言われている。生活科では、自分との関わりで学習を振り返ることが出来たかどうか、学習の成否を決めると言われている。他の教科でも、問題解決的な学習を展開する場合、学習を振り返る場面は、次の学習のめあてを持たせ、次の学習への意欲を高める場面として大切だと言われている。

では、どうすれば子どもたちが学習を振り返ることができるようになるか。当然のことだけれど、振り返りの時間をきちんと確保する。そして、振り返る視点を指導する。①教材について…②自分の学びについて…③友だちとの学びについて…④先生との学びについて…。「まとめ」を何がわかったのか、何が出来たのかをまとめる場ととらえ、「振り返り」は、何を考えたのか、何を思ったのかをまとめる場ととらえ、子どもにもその違いを理解させたい。言いかえれば、まとめは、知識や理解や技能のまとめであり、振り返りは、思考や判断や関心や意欲のまとめ、情意的なまとめととらえたい。

「今日は最初はむずかしかったので、先生の話を生懸命に聞いた。そしたらやり方がわかった。うれしかった。次の時間も頑張りたい。」とか、「ひろしくんが説明してくれたけれど、集中していなくてぼんやり聞いていた。だから、今日はよくわからなかった。家でもう一度やってみようと思う。」などの振り返りができれば最高だと思う。

